



株式会社不動テトラ

2025 年 3 月期決算説明会

2025 年 5 月 29 日

イベント概要

[企業名]	株式会社不動テトラ
[企業 ID]	1813
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2025 年 3 月期 決算説明会
[決算期]	2025 年度 通期
[日程]	2025 年 5 月 29 日
[ページ数]	41
[時間]	13:30 – 14:16 (合計：46 分、登壇：41 分、質疑応答：5 分)
[開催場所]	インターネット配信併用 103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 3 階 第 3 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	145 m ²
[出席人数]	27 名
[登壇者]	3 名 代表取締役社長 奥田 眞也 (以下、奥田)

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



取締役 常務執行役員 管理本部長 川地 洋治 (以下、川地)
管理本部 財務部長 北垣 大輔 (以下、北垣)

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



登壇

司会：定刻となりましたので、ただ今から、株式会社不動テトラ様の決算説明会を開催いたします。今回の説明会は、会場での開催に加え、ライブ配信形式のオンラインと併せたハイブリッド形式で開催させていただきます。

初めに、会社からお迎えしている3名の皆様をご紹介します。まず、代表取締役社長の奥田眞也様です。

奥田：奥田でございます。よろしくお願いいたします。

司会：よろしくお願いいたします。次に、取締役、常務執行役員、管理本部長の川地洋治様です。

川地：川地でございます。よろしくお願いいたします。

司会：よろしくお願いいたします。次に、管理本部、財務部長の北垣大輔様です。

北垣：北垣でございます。よろしくお願いいたします。

司会：よろしくお願いいたします。本日は奥田様、川地様からご説明いただくことになっておりますが、お二人のご説明後、まず会場からの質疑応答の時間といたします。続きまして、今回オンラインでご参加されている方からもご質問をお受けする予定です。ご質問のある方は、会社名、お名前をご入力の上、チャットにてご質問ください。質問は説明中も受け付けております。

それでは奥田様、よろしくお願いいたします。

奥田：あらためまして、奥田でございます。よろしくお願いいたします。本当にお忙しい中、弊社の2025年3月期決算説明会にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。また、日頃から皆様には弊社のIR活動にご理解とご協力を賜りましたこと、あらためて重ねて御礼を申し上げます。

また、ご説明に入らせていただく前に、昨年度、弊社工事現場におきまして不正会計処理が発覚をいたしました。ホームページ等でも開示をさせていただいております。経営の責任者として、心から深くおわびを申し上げます。

1月に調査委員会を発足させまして、調査委員会の報告書をもとに取締役会で再発防止を決議いたしました。5月初めに、これもホームページで既に開示をさせていただいております。役員、社

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



員、全社一丸となって施策に取り組み、コンプライアンスの実践に向けて全力で取り組んでまいります。皆様の信頼をしっかりと再度得られるよう努力をしております。引き続きのご理解とご支援を賜ればと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、決算発表をご説明する前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。本日、説明に使わせていただきます説明会資料、それと 2025 年 3 月期決算短信連結、同じく決算補足説明資料、そして昨年度、2024 年度のコーポレートレポートをお手元に配布をさせていただいております。参考によりしくお願いいたします。

中期経営計画の進捗状況



■中期経営計画(2024～2026年度)の概要 (基本方針)

①新規事業の創出と事業領域の拡大	②経営理念を基盤としたESG経営の実践
③資本コストを意識した経営の実践	④人的資本経営の推進

■数値目標(連結ベース)

	中期経営計画(2024～2026年度)	2024年度の計画	2024年度の成果
業績目標	3ヶ年累計営業利益 120億円以上	営業利益 30億円	営業利益 31.8億円
資本効率目標	2026年度自己資本当期純利益率 ROE 9%以上	ROE 6%	ROE 6.6%
株主還元目標	配当性向40%程度 配当金60円以上	配当性向40%程度 配当金60円以上	配当性向 41.3%予定 配当金 60円予定

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 5

それでは、私から順次説明をさせていただきます。

まず、昨年度は新しい中計 3 カ年の 1 年目、初年度が終わりました。中期経営計画、基本方針としまして、「新規事業の創出と事業領域の拡大」、「経営理念を基盤とした ESG 経営の実践」、そして「資本コストを意識した経営の実践」。少し文言は変わっていますが、この三つにつきましては前中計、前々中計、今回の中計 3 回を、10 年先を見通した長期的目線での中期経営計画ということで立ててまいりましたので、この三つについてはほぼ同様な基本方針としています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ただ、現在の世の中の求められる、やはり企業が成長して維持していくための必要な基本方針として、人的資本経営の推進、この4番目のものを本中計では追加してスタートいたしました。

連結数値計画



(億円/%)	中期経営計画				2024年度	2025年度	2026年度	合計
	2024年度	2025年度	2026年度	合計	実績	計画	計画	
受注高	750	765	775	2,290	723	745	775	2,243
売上高	715	745	780	2,240	696	780	780	2,256
営業利益	30	42	48	120	32	40	48	120
営業利益率	4.2%	5.6%	6.2%	—	4.6%	5.1%	6.2%	—
ROE	6%	8%	9%	—	6.6%	8%	9%	—

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 6

数値目標の連結ベースの計画です。もう既にご理解いただいていると思いますが、3カ年で営業利益120億円以上、ROEは2026年度、最終年度に9%以上、そして株主様への還元目標は配当性向40%程度、ただし配当金最低60円以上という3カ年の数値目標を立ててスタートをいたしました。

24年度、営業利益30億円、ROE6%、配当金60円以上という計画でスタートをし、結果としましては営業利益31.8億円、ROE6.6%、配当金につきましては株主総会での決議をいただいております。ですが、60円を現在予定させていただいております。詳細について説明をさせていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



全社業績結果



当社グループの業績は、期首手持ち受注高は722億円(前期比1.7%増)、受注高が723億円(前期比4.5%増)と増加、売上高は696億円(前期比2.4%増)と増収となり、営業利益は31.8億円(前期比19.6%増)と増益となった。経常利益は33.7億円(前期比14.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は22.0億円(前期比9.6%増)とそれぞれ増益となった。

	2023年度 通期	2024年度 通期	前期比
(億円/%)			
期初手持ち高	710	722	12.1
受注高	692	723	30.9
売上高	679	696	16.1
売上総利益	108.1	120.1	12.0
販売費および一般管理費	81.6	88.3	6.7
営業利益	26.6	31.8	5.2
(営業利益率)	(3.9%)	(4.6%)	(0.7%)
営業外収支	2.9	1.9	▲1.0
経常利益	29.5	33.7	4.2
特別損益	0.2	▲0.6	▲0.8
法人税等	9.6	11.1	1.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	20.1	22.0	1.9



2024年度の実績受注 723 億円、売上 696 億円、営業利益 32 億円という結果で終わりました。25 年度、今期スタートしておりますけれども、受注の計画 745 億円、売上が 780 億円、営業利益 40 億円、ROE8%ということで、本年度目標を設定して既にスタートをいたしました。

セグメント別に入る前に、結果について少し細かくご説明をさせていただきます。期初の手持ちは 722 億円で、比較的弊社の規模感では高い期初の手持ち高を持っでのスタートとなりました。受注は 723 億円、696 億円の売上ということで、前期よりも増収、受注も 1 割程度増えるという形の結果になりました。

利益面でも売上総利益で約 10%、営業利益でも約 20%弱増益という形での結果で終わることができました。各事業ごとに少しばらつきはありますので、後ほど説明させていただきますが。結果的には前期に比べて増収増益、利益面でも計画値に対しても、目標達成できたということで、中計 1 年目のスタートとしてはしっかり答えが出せたのかなと。

しかも前中計がコロナ禍のちょうど終盤にかかりまして、土木事業が苦戦をするという結果で、なかなか目標が達成できない中、新しい中計のスタートとしては順調なスタートを切れたかなという

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

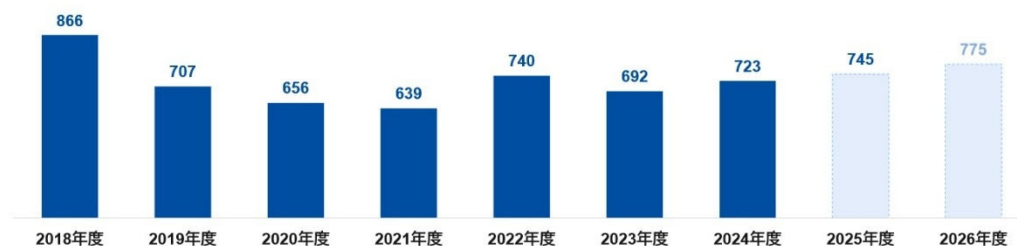


気がしております。純利益も 22 億円ということで、目標に対して 10%程度の過達という結果でございます。

【参考】 全社 過年度推移



◆ 受注高（億円）



◆ 売上高（億円）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 9

参考に、過去 2 回の中計の結果と、2025 年、26 年の現在の推定もここに入れさせていただきます。受注に関しても、ここ 2～3 年から右肩上がりで、今年度の計画も右肩上がりでの計画をしております。売上も、当然手持ちもかなりございますが、受注も 2024 年、2025 年と増加傾向での計画をしておりますので、売上、受注とも右肩上がりでの見通しを立てております。

サポート

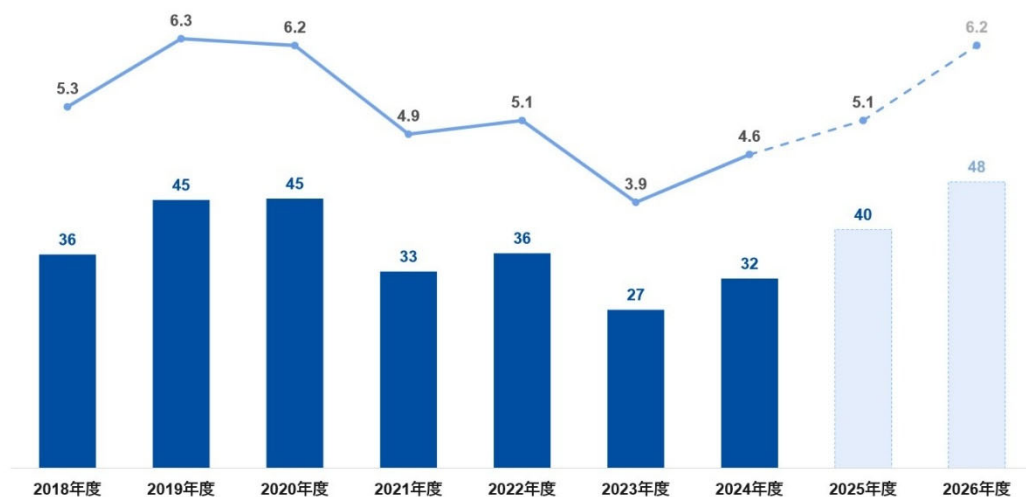
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



【参考】 全社 過年度推移



◆営業利益・営業利益率(億円・%)



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 10

営業利益でございます。前中計がなかなか本当に少し苦戦しながらでしたが、2024 年度前期は増収。今年度、2025 年度の計画も前年度よりも約 20%以上の増収増益を見通しております。最終年度中計の 2026 年度についても、また 20%程度の増益を期待するという計画にしております。最終的には中計 3 カ年の最終年度、6%を超える営業利益率を見通した計画としております。

サポート

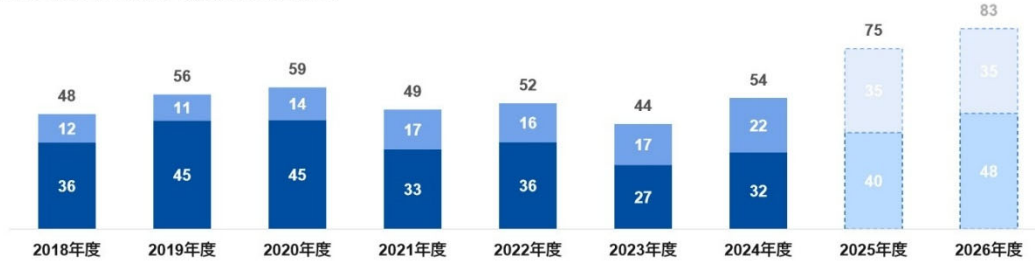
日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



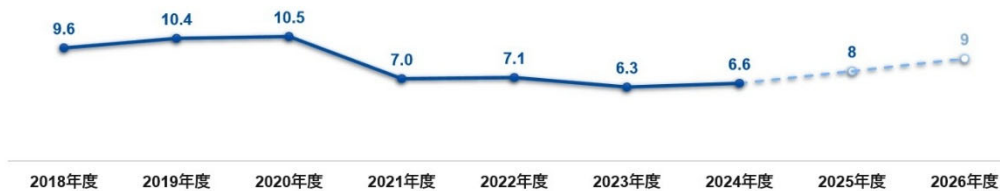
【参考】 全社 過年度推移



◆ EBITDA(営業利益+減価償却費:億円)



◆ ROE(自己資本当期純利益率:%)



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 11

これは、本中計の中、前中計からもそうですが、施工能力の増強あるいは将来への事業規模を拡大するための設備投資を割としっかり続けてきております。ですので、そういった設備投資の減価償却等も含めまして、営業利益と含めて、どれぐらいの稼ぐ力があるのかというのを表しております。

昨年度は 54 億円、今年度に至っては 75 億円、営業利益と減価償却でその数字を見通しております。こういった形で、しっかり将来への準備といいますか、投資もしておりますけれども、それも含めてもある程度見通しながらの計画を立てております。

冒頭お話ししましたように、ROE につきましては最終年度の 9%を目指すという形で進めております。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



【参考】 全社 過年度推移



◆ 自己資本・自己資本比率（億円・％）



◆ 配当総額・配当性向（億円・％）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 12

これも参考にお付けさせていただいております。現在の自己資本比率と自己資本、現在が 342 億円の自己資本で、53.3%の自己資本比率ということで、50%を少し超える程度で推移をしてきております。

配当につきましてですが、昨年度の予定、株主総会後ですが、60 円ということで 9.2 億円の配当を想定しております。2025 年度、今年度末、来年度の配当につきましては、当然営業利益を高く設定しておりますので、現在公表させていただいておりますのは、配当として 1 株当たり 70 円、10 億 7,000 万円を配当総額として見通しをさせていただいております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント別全社業績結果



	2023年度 通期	2024年度 通期	前期比
受注高	692	723	30.5
土木事業	274	287	12.8
地盤改良事業	386	418	32.7
ブロック事業	39.6	22.8	▲16.8
売上高	679	696	16.1
土木事業	260	284	23.7
地盤改良事業	391	393	1.3
ブロック事業	34.5	26.5	▲8.1
売上総利益	108.1	120.1	12.0
(率)	15.9%	17.3%	1.3%
土木事業	10.1	31.9	21.8
(率)	3.9%	11.2%	7.4%
地盤改良事業	82.8	75.2	▲7.6
(率)	21.1%	19.1%	▲2.0%
ブロック事業	13.6	11.6	▲2.0
(率)	39.2%	43.7%	4.5%
販売費および一般管理費	81.6	88.3	6.7
営業利益	26.6	31.8	5.2
土木事業	▲15.0	5.6	20.6
地盤改良事業	40.6	33.9	▲6.7
ブロック事業	0.7	0.6	▲0.1

※全社計には3セグメント以外の数値及び連結調整額が含まれるため、3セグメントの合算値と全社計は一致しておりません。

○受注高

(土木) 国交省・NEXCO 苦戦も自治体・民間で補い増加
(地盤改良) 繰越工事変更増や海上工事好調で増加
(ブロック) 型枠賃貸市場の回復見られず、減少

○売上高

(土木) 上期進捗遅れも、下期大型工事の本格稼働により増収
(地盤改良) 好調な受注を背景に前期と同水準の工事進捗により微増
(ブロック) 受注高減少に連動して減収

○売上総利益率

(土木) 大幅な採算悪化工事少なく、改善
(地盤改良) 船舶の修繕費等の間接原価負担が大きく、悪化
(ブロック) 型枠賃貸での前期繰越増に伴う間接原価の圧縮により利益率は若干の改善

それでは、少しセグメント別についてご説明をさせていただきます。

まず、土木事業ですが、受注は 287 億円、売上 284 億円で、微増ですが、受注、売上とも前年度よりは増えております。結果的に利益面でも前年度に比べればかなり増えた数字となっております。ただ、前年度が大型工事が中断、あるいは民間の工事が着手できないと、そういったことが重なりまして、本当に残念な結果でしたけれども、大幅に赤字の結果が出ました。それに比べますと、当然回復の傾向にあるとは言えるかと思えます。

ただ、まだその途中だという判断をしております。まだまだ大型工事が着手して時間が短い、あるいはもう少し進捗のスピードが上がるはずですので、前期についてはまだ回復の途中かなという気がしております。営業利益は 5 億 6,000 万円ということで、当然黒字化は当たり前ですけども、回復の兆しを見せたという結果だろうと思えます。

地盤事業です。受注が 418 億円、売上が 393 億円で、受注につきましては本当に何十年ぶりに 400 億円を超える受注ということで、かなり受注の環境としては好調な状況が続いております。前期の、2028 年も 386 億円ということでかなり高い水準でしたが、引き続き 2024 年度も高い水準での受注の結果を残しております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



当然売上も進みますので、利益面でも高い利益を得ております。ただ、前年度、2023 年度に比べますと若干見劣りする数字になっております。ただ、これは売上総利益という表現をしておりますが、工事 1 件 1 件の生み出した粗利益という面では決して低下もしておらず、高い水準を維持したまま利益は積み上げております。

地盤事業に関しましては、実際自社の船舶、施工機で施工しますので、その辺の設備の改良、あるいは稼働が大きくなりますと修理、消耗、そういったものが発生するということで、少し間接原価が発生した関係で数字的には減少したような形になっていますが、実態的には稼ぐ力はまだ全然落ちずに進んでいるという判断をしております。

次に、ブロック事業です。なかなか苦戦が続いております。受注、売上とも前年度よりもショートと。やはり人件費、資機材の価格が高騰していることによって、同じ工事費の金額の中で、私どもは賃貸事業をしておりますので、型枠の賃貸の占める割合がものすごく減少してきています。工事金額が同じでも、発注されるブロックの個数が 3 割減、4 割減というのが当たり前のような時代になってきていますので、その辺がここ 2～3 年大きな影響が続いています。

そういった意味で、立て直しも含めて外へ出ていく費用を抑える、あるいは組織を少しスリムにするといった対応をしながら、何とか営業利益は黒字ということで対応をしてきております。結果的に 3 事業とも営業利益は黒字ということですが、なかなかブロックはまだ厳しい状況が続いているとご理解をいただきたいと思います。

サポート

日本 050-5212-7790

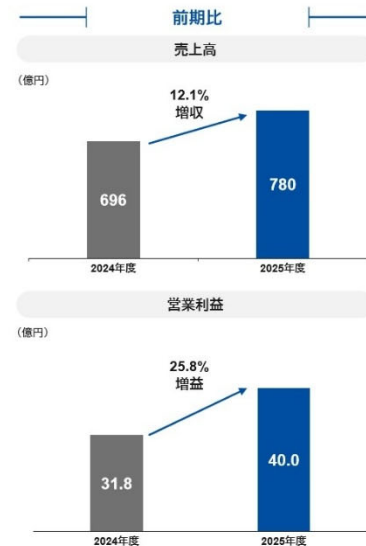
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

セグメント別全社業績通期予想



(億円/%)	2024年度 通期実績	2025年度 通期予想	前期比
受注高	723	745	22.2
土木事業	287	286	▲0.6
地盤改良事業	418	430	11.7
ブロック事業	22.8	25.0	2.2
売上高	696	780	84.4
土木事業	284	317	33.2
地盤改良事業	393	434	41.2
ブロック事業	26.5	26.0	▲0.5
売上総利益	120.1		
(率)	17.3%		
土木事業	31.9		
(率)	11.2%		
地盤改良事業	75.2		
(率)	19.1%		
ブロック事業	11.6		
(率)	43.7%		
販売費および一般管理費	88.3		
営業利益	31.8	40.0	8.2
土木事業	5.6	8.0	2.4
地盤改良事業	34.0	39.0	5.1
ブロック事業	0.6	0.6	▲0.0

※全社計には3セグメント以外の数値及び連結調整額が含まれるため、3セグメントの合算値と全社計は一致していません。



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 14

これは、前年度と比較した売上高、全社になりますけれども12%の増。営業利益につきましては26%増と表現をさせていただいています。この25年度の計画ですが、やはり数字的には地盤事業の430億円の受注見通し、売上で434億円という見通し、この二つがかなり好調な市場環境、あるいは受注環境が引き続き続くのご理解をいただければと思います。

土木もしっかり、少しずつですけれども、手持ちの工事が動き出していますので、徐々に回復傾向にあると理解をしております。ただ、先ほどもご説明をしましたように、ブロック環境事業につきましては、なかなかまだ同レベルでの市場環境が続きますので、少しギリギリの黒字化で進んでいくのが現状であるかなという気がしております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



事業別の状況 土木事業



受注高は、287億円(前期比4.7%増)と増加し、売上高は、進捗遅れのあった大型工事の稼働が本格化し、284億円(前期比9.1%増)と増収となった。利益面では、前期に採算悪化した工事の影響は残るものの、5.6億円のセグメント利益(前期15.0億円のセグメント損失)となった。

事業方針

長期安定性の確保(受注、利益、人員)～「守り」から「攻め」へ～

主な事業戦略

- 事業規模の拡大
- 採算性の向上
- 戦略的パートナーシップの構築
- 研究開発・設備投資
- 採用(人的投資)
- 教育
- 働き方改革

年度別数値目標・実績



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 15

それでは、事業別に、少し詳しくお話をさせていただきます。

土木事業です。なかなか中計の計画を立てたときに比べると、少しスタートで、利益面でなかなか回復が遅れています。一つには、やはり手持ちはたくさん受注残がございます。ただ、その分なかなか新規工事に人手を回して受注するということがまだまだ準備ができません。その分、受注の計画に対して少し目標を達成できないような受注環境で継続をしているというのが現状でございます。それに伴いまして売上も若干やはり計画に対して未達状況ですので、利益面で回復が少し遅くなっているという形です。

ただ、そういう中でも、後でご説明を差し上げますけれども、戦力の増強、戦略的投資という意味合いで新しい船も完成をいたしました。それによりまして、昨年度末にはその船を使うという大前提での条件で応札しました港湾工事2件を受注することもできています。そういった施策は徐々に効果は出しているとは考えております。

サポート

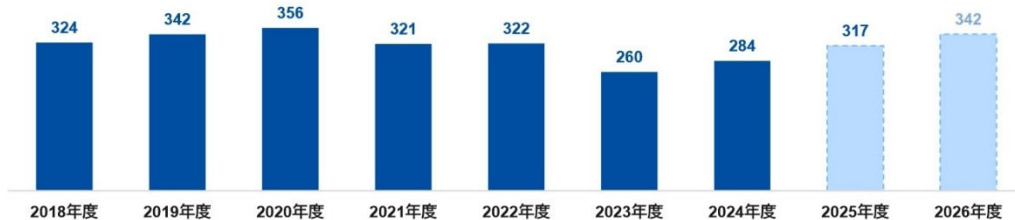
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



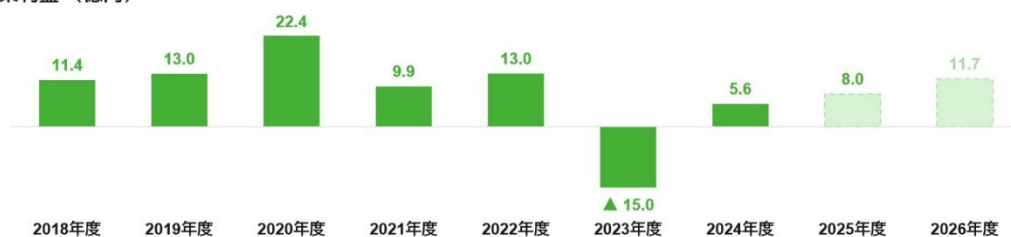
【参考】土木事業 過年度推移



◆ 売上高（億円）



◆ 営業利益（億円）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 16

土木の過年度の推移です。少し 2023 年度が厳しい状況になりましたが、徐々に回復していくとわれわれは見通しをしております。利益面でも同じでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



事業別の状況 地盤改良事業



受注高は、受注環境が良好な状況にあり、418億円(前期比8.5%増)と増加し、売上高は、下期の高稼働もあり、393億円(前期比0.3%増)と増収となった。利益面では、手持ち工事の採算性は良好を維持するものの、保有機械の修繕費が増加したこともあり、34.0億円のセグメント利益(前期比16.4%減)となった。

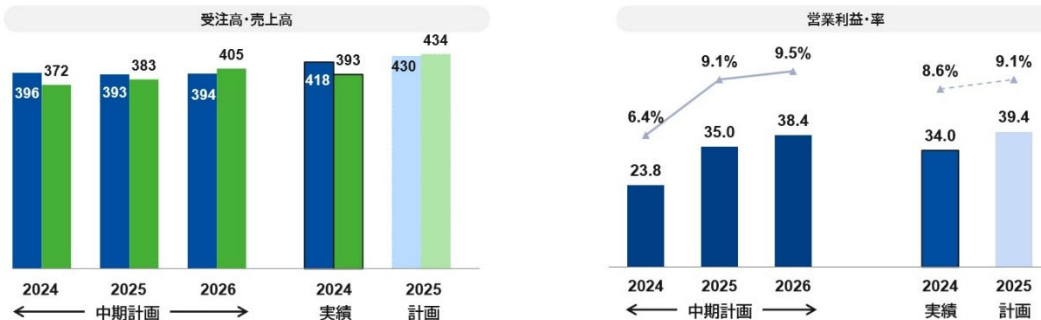
事業方針

多様化する社会的要求への対応に向け、新技術の開発・導入を軸とした持続的な事業の発展と周辺事業領域の更なる拡大

主な事業戦略

- ・主力工法の改善改良による競争力アップと事業量の確保
- ・海外事業の安定化
- ・新技術・新工法の開発・導入による周辺事業領域の拡大
- ・利益体質の更なる向上
- ・人材の確保・育成と働き方改革への対応

年度別数値目標・実績



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 17

続きまして、地盤事業です。地盤事業は、現中計からかなり将来を見通した施策を展開してきています。新技術の開発、あるいは持続的な事業の発展のために、周辺の事業領域を少し拡大する、こういったところにも力を入れながら、収益のメインとなります既往の船舶、施工機械を大幅にリフレッシュ、あるいは施工能力の増大を図っております。その成果が徐々に出てきております。

数字的には 400 億円を超える受注と、430 億円を超える売上ということで、2025 年度につきましては、合併して以来、過去最高の受注と売上を記録するだろうということで見通しをしております。

営業利益につきましても、中計で計画した営業利益よりも、既に高い計画を今期目標としてスタートいたしております。40 億円に近い目標数字としております。

サポート

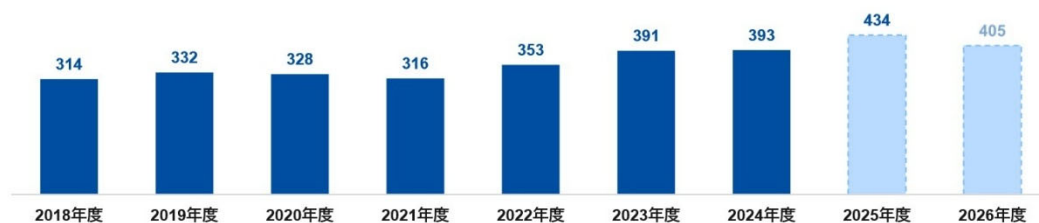
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



【参考】地盤改良事業 過年度推移



◆ 売上高（億円）



◆ 営業利益（億円）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 18

これは地盤事業の過年度の推移です。売上高につきましても、ここ5年で300億円少しから400億円を超えるところまで成長をしてきています。利益面は当然投資も絡みますので、減価償却とかいろいろ発生しますので、少しばらついたりしますが、40億円近い営業利益を出せる力は付いてきているのかなと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



事業別の状況 ブロック環境事業



受注高は、前期にあった大型案件向け型枠賃貸、商品販売の減少により、22.8億円(前期比42.5%減)と減少し、売上高は、26.5億円(前期比23.4%減)と減収となった。利益面では、主力の型枠賃貸の減収が影響し、0.6億円のセグメント利益(前期比11.2%減)となった。

事業方針

技術に裏付けされた製品により安定した収益を図り、ブロック事業のリーディングカンパニーを堅持する
事業フィールド:「防災・減災」「環境」「海外」

主な事業戦略

- 分業別シェアの維持・拡大を図るとともに新市場へ参入し、トップシェアを堅持する
- 収益力の向上
- 商品販売事業での長期的収益確保
- 海外展開
- ESG経営を意識した企業価値向上への寄与

年度別数値目標・実績



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 19

ブロック事業です。なかなか厳しい状況の説明を差し上げましたが、ここ 2024 年度、そして今年度スタートした計画もなかなか中計のときに立てた計画に比べますと、現状見通しは厳しい状況です。全てがこの型枠賃貸事業を中心とする市場環境の悪化ということがやはり一番の大きな要因になっています。

シェアとしては、弊社のシェアはトップシェアを誇っていますので、そんなに変動はないんですが、やはり全体の市場の低下というのが大きな影響が出ています。ただ、これカバーするために、やはりいろんな施策を打ち始めています。商品販売事業で扱う商品を拡大する、あるいは技術開発を展開しますグリーンインフラや、カーボンニュートラル分野での当社の技術を用いた製品、そういったものが少しずつ成果が出てくるのがもう少し先になるかなという気はしていますが、積極的にそういった今の主力分野でないところへ、少しずつ力を入れていける方策で進めております。海外についても同じでございます。

サポート

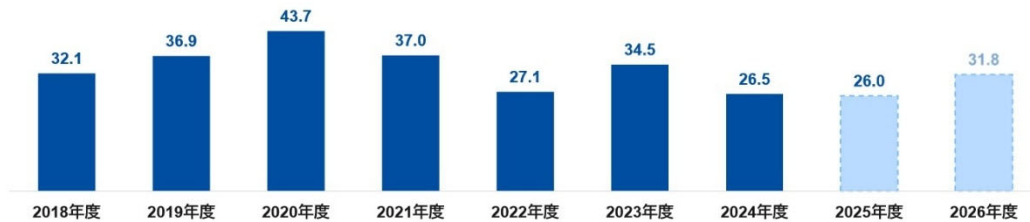
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



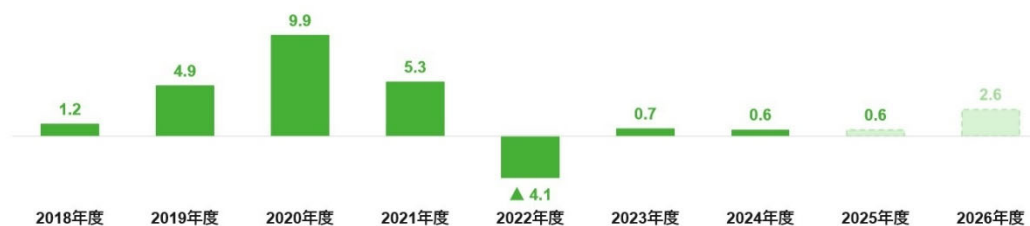
【参考】ブロック環境事業 過年度推移



◆ 売上高（億円）



◆ 営業利益（億円）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 20

ブロックの推移です。やはり 35 億円から 40 億円を超える売上があったものが、20 億円の後半から 30 億円前後の売上に落ちてきているというのが、やはり大きな利益面での減少の主な要因だろうと思います。何とか組織として黒字が出せるように、現在運営しているのが現状でございます。

サポート

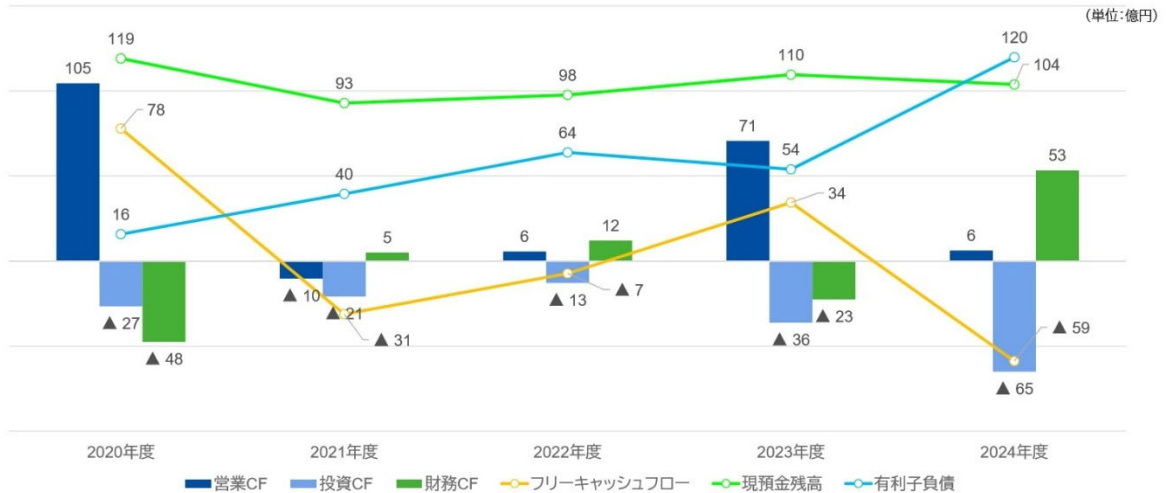
日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



キャッシュフローの状況



営業活動によるキャッシュ・フローは、工事立替の増加や支払サイトの短縮が影響して6億円のプラスに留まる。
投資活動によるキャッシュ・フローは、将来の成長に向けた設備投資を積極的に進めたことから65億円のマイナス、
財務活動によるキャッシュ・フローは、主に設備投資資金に負債を活用したことにより53億円のプラスとなった。



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 21

キャッシュフローについてもお付けをしております。2024年度につきましては、工事の立替金と支払サイトを短縮した影響、それと大きな工事の入金が2025年、今年度の4月、5月にずれた傾向等もありまして、営業活動によるキャッシュフローは例年に比べますと少し少ない6億円と。

大きな例年と違うことは、やはり設備投資の資金に負債を積極的に活用させていただいたということが大きいかなと考えております。ただ、現状、4月、5月にかなり入金をしてきておりますので、営業キャッシュフローについては今年度スタートで少し大きくなってきているとご理解をいただければと思います。

サポート

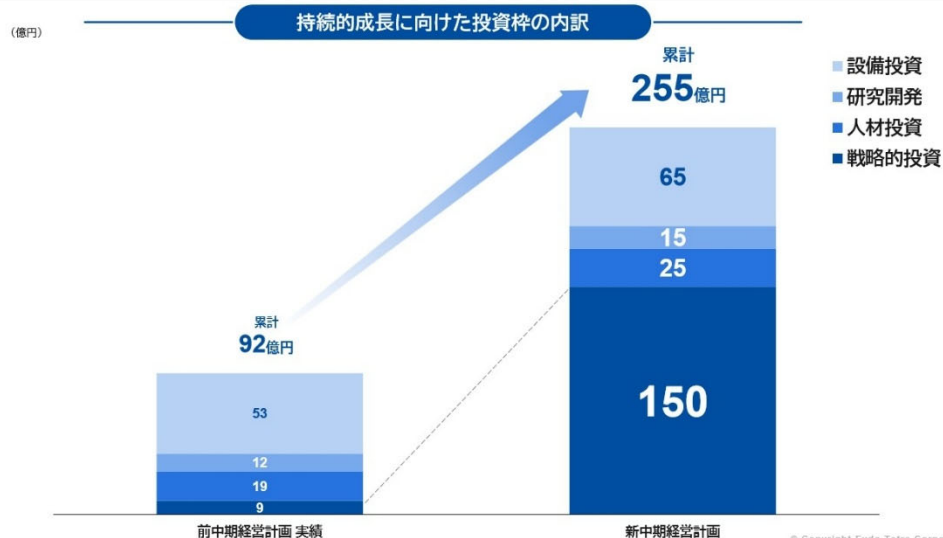
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



新規事業の創出と事業領域の拡大



中期経営計画では255億円へ拡大投資を行う。※前中期経営計画での投資額92億円
特に、新規事業の創出と事業領域の拡大を目指し、**戦略的投資として150億円**の予算枠を設定した。



続きまして、投資の状況です。中計スタートに当たり、この150億円という戦略投資を含めて3カ年で255億円という投資をしていきたいということで発表をさせていただきました。もちろん現有戦力、あるいは人に対する投資、研究開発も含めてですが、やはり大きくは将来の事業を拡大するための戦略的な投資ということに着眼した投資の計画を立てております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



設備投資



◆ 設備投資（億円）



2024年度の主な設備投資

土木事業	浚渫兼起重機船(押航式)「FT400」、艀装式無人リリースフック、オゾン発生装置
地盤改良事業	大阪機械センター耐震化、SCP船改良、超小型施工機DHJ30、海上CONOS、アースオーガ
ブロック事業	型枠・部品、型枠業務システム更新
その他	業務系仮想サーバー更新

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 24

その中で、まず設備投資です。見ていただきますと、20 億円を若干超えるぐらいの設備投資を続けておりましたが、2023 年度から大きく将来のための投資を開始しております。昨年度は約 70 億円というかなり規模の大きな投資をしています。

メインとしましては、先般見学会も催させていただきました。浚渫兼起重機船、FT400。土木としては二十数年ぶりの新造船になります。それと、地盤改良ではサンドコンパクション船を休船していた船舶を受注拡大、市場拡大を目指して、新しくして投入をしています。また、大阪の機械センターを、リニューアルの耐震化も始めております。

そういった形で、設備投資の中にも戦略的な投資を含めた金額が織り込まれております。

サポート

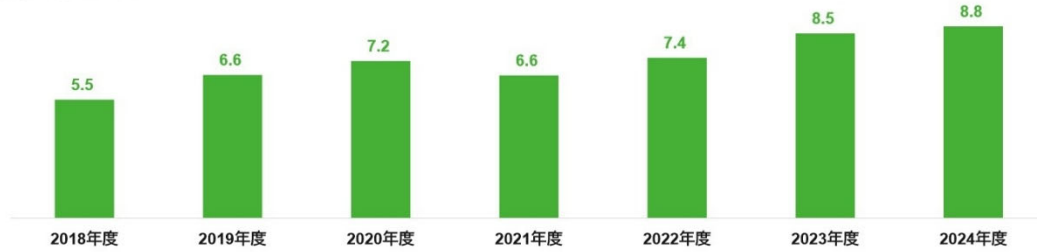
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



研究開発投資



◆ 研究開発（億円）



	主な取り組み状況	
総合技術研究所	・デジタルツイン環境の構築・運用	・オープンイノベーションによる波・流れ関連事業の開発
	・革新的な観測技術の獲得・運用	・先端技術の活用方策に関する検討
	・地球環境保全技術の獲得・運用	・新分野への展開に向けた調査・検討
土木事業	・総合評価対策強化のための調査研究	・AI、VRに関する調査研究
	・CIM/ICTに関する環境整備	・土壌浄化技術の開発
地盤改良事業	・ICTを活用した生産性向上の技術開発	・事業領域拡大・環境配慮型の技術開発
	・新工法の技術開発	
ブロック事業	・環境配慮型材料の開発	・DXの活用による新しい技術・サービスの創造
	・ブルーカーボンに資する研究・製品開発	

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 25

研究開発ですが、右肩上がりでこれも伸ばしてきております。弊社の売上の規模感からしますと、かなり9億円近い研究開発費というのは割合としては高いと考えています。主に昨年度、総合技術研究所を3事業から独立させて、独自の、会社全体のトータルの研究所として再スタートを切っております。ですので、ここにやはり研究開発の面、不動テトラの技術の中核という意味で、人材と費用も集中させるという形で、中計1年目にスタートをいたしました。

現在の技術の深掘りもそうですけれども、新しい事業領域へ進出する技術、それと環境に考慮した技術、そういったものを研究開発できる組織という形での研究所になってきています。また、地盤改良の現物大の実験工事ができる場所と施設もこの研究所の中に整備が終わっております。あと、それぞれ事業に受注のための技術開発も各事業が発案して、研究所で委託を受けて進めるというような形で研究開発を進めております。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



持続的成長を支える人材戦略:基本方針と重点施策

基本的考え方:「持続的成長と事業価値向上のため、人材への投資(量・質)が不可欠である」

《重点施策》

1. 採用力の強化

「新卒および中途採用活動を通じ、多様な人材の確保を目指します。」

- 母集団形成(出会いのきっかけ)強化となる、幅広い採用手法
- 多種のインターンシッププログラムから、幅広い学生の受入れ
- 魅力・事業内容をしっかり伝え、ミスマッチを軽減するフォローアップ策の強化

2. 魅力ある処遇、魅力ある労働環境の実現

「ベースアップ、賞与による還元でモチベーション向上を図ります。」

「社員のウェルビーイング、エンゲージメントを追求します。」

- 社会環境を踏まえた、ベースアップの実現
- 社内制度、規程の拡充

3. 実効性のある人材育成

「各層に応じた研修制度の整備と実施により、能力開発を支援します。」

- 過去実績にとらわれない研修の企画、実施
- 教育研修に会社全体で継続して取り組む



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 26

そして、人材資本への投資、新しい中計の一つの方針の柱として挙げております。当然、今人がどのように育って、どのようにやはり技術を継承していくか、そしてわれわれがしっかりそういった人材を確保していけるかどうか、これは企業の将来の持続的な成長に関わる一番大きな柱かなという気もしております。採用の強化、あるいは研修、労働環境の改善、もう当たり前ですけども重点的に取り組んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

具体的な取り組みと今後の課題

人材戦略の推進：2024年度の主な取り組みと今後の展望

1. 採用状況

(新卒採用)実績:「2025年入社:33名(技術系28名、事務系5名)」
 >目標未達も、前年度を上回り多様な人材を確保。
 <今後の活動>2026年・2027年卒も早期対応。フォローアップ強化で活動中
 (中途採用)実績:「2024年度:12名(技術・技能系10名、事務系2名)」
 >注力する施工管理職は4名と増加。
 <今後の活動>2025年度も積極採用を継続中

2. 処遇改善

・初任給引上げ:

実績)2025年4月大卒	275,000円
計画)2026年4月大卒	290,000円

 ・ベースアップ:4%upを実施、賞与4.5ヶ月+(1.0~1.25ヶ月)
 ・その他諸制度
 >育児・介護関連制度の拡充 >限定職賃金体系見直し >手当見直し等働き方の多様性を推進する制度の拡充

3. 人材育成

新入社員から役員まで、ゴールを明確にした教育研修の企画、実施。

●研修実績

	2024年度実績	2023年度実績
教育研修費	38,544千円	31,991千円
費用	42,356円/人	34,888円/人
時間	16.0時間/人	19.7時間/人

4. 今後の課題

・教育研修の拡充:
 >スキルアップ研修(選抜型、事務系研修等)の充実
 >リスキリング(eラーニング、DX推進関連等)の拡充
 ・スキルマップの確立
 >社内社外へ向けた魅力向上の柱となる、教育研修体系や人事評価、最適配置と連動したスキルマップの作成

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 27

採用につきましては、今年度、2025年の入社は33名です。40名を目標にしていますが、かなり厳しい競争の中で人材採用を続けていると。当然各社さん、採用に全力を注がれていますので、そういう厳しい競争の中で33名、そして中途採用で12名の方に入社をしていただいております。現在も積極的に中途での採用、あるいは来期以降の新入社員の採用活動についても続けております。

処遇改善という意味で、なかなかスーパーさん等には追いつくのは厳しいですが、この4月は27万5,000円、来年度の4月は29万円ということで、初任給の引き上げも行っております。また、社員に対しても定昇プラス4%のベースアップ、それと賞与につきましても4.5カ月の基本に対して、それプラス1.0から1.25カ月ということで、最低5.5カ月というような形で業績目標を達成したということもありますので、上乗せをした処遇の改善を実施いたしました。

あと、人材育成に対する教育の費用についても計画を立てて進めております。また今後は、個人個人の、どのように成長してどこへ自分が職場として付いていくか、あるいは会社としてもそういう人材をどこに配置していくか、そういった意味での最適配置を目指したスキルマップの作成を現在進めていく予定にしております。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

主な投資 浚渫兼起重機船(押航式)「FT400」



海洋インフラの再構築に向け新機能を搭載し環境性能を向上した浚渫兼起重機船(押航式)「FT400」
2025年3月完成



さまざまな海上プロジェクトへの浚渫兼起重機船の参画に向けて積極的な営業を展開していくとともに、災害発生時において対応が可能な機能を装備することにより、被災地の災害支援活動に役立ちたい

主要機能

船体寸法	全長:68.5m 幅:25m 深さ:4.5m
最大吊能力	400t
最大積載荷重	4,011t
排水	軽荷排水1,314m 満載排水3,747m
総トン数	2,039t
DPS	4台、推力約2TON DPS-CLASS1
蓄電システム	蓄電容量450KWh
スバッド装置	□1,300×28.5m 2本

新機能・新設備

[新機能1]	DPS(Dynamic Positioning System) アンカーレスでの作業や自動船位保持・移動が可能です。
[新機能2]	AI航行支援システム 海上衝突防止および監視業務低減により安全性の向上と省人化を可能にします。
[新機能3]	無線フィンチ 無線フィンチにより省人化・安全性の向上を図ります。
[新機能4]	ハイブリッド蓄電システム・陸上電力供給システム 発電機の少量化、夜間および作業休止時の発電機稼働時間を削減できCo2発生量を削減します。
[新機能5]	電動スラスタ 蓄電システムと併せて余剰電力を有効活用し、Co2発生をゼロにします。
[新設備1]	女性専用室 女性職員や女性船員の乗船に配慮しています。
[新設備2]	避難所設備 船倉の一部(約100m2)を災害時の避難所に即時変更可能な設備としています。

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 28

あと、投資の中で、これは先般、東京湾でいろいろな方に見学に来ていただきましたFT400です。完成いたしました。既に現在は受注いたしました名古屋の仕事に向かって今、航行しているところだろうと思います。

機能としましては、生産性を上げる機能、安全性を確保する機能、そして環境に配慮した機能、そして職場環境、それとダイバーシティ、女性の方にも優しい職場であるところ。もう一つ大きいのは、こういった船は地震とか津波、あるいは大きな被害がありますと、災害復旧にすぐに派遣をされます。そのときに、そういった災害復旧の作業をするだけではなく、この船の中に避難し、住民の方に避難していただけるスペースをつくりました。そこに食料と水も用意をした形で、そういったところにも行けるような形での社会貢献もできる形の設備もさせていただきました。

この船を技術提案にしっかり織り込みながら、今までの受注にプラスできる仕事量を確保するという形で、今年度も計画をしております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



主な投資 地盤改良事業展開への投資



地盤改良事業では、時代のニーズに応じた地盤改良の技術開発、設備投資、人的投資を行っている。

i-Construction 2.0 への対応

建設機械施工の自動化・遠隔化技術への投資

■地盤改良工法の自動施工システム

GeoPilot®-AutoPile(ジオパイロット-オートパイル)

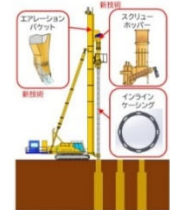


■遠隔操縦システム



新工法の開発

「リソイルPro工法」用機械への投資



施工力を支える設備への投資

■施工機械の戦略的更新

市場の動向を調査したうえで、毎年複数台の機械の入れ替えを実施しています。将来の需要を見込み、海上作業船のリニューアルにも取り組んでいます。



SCP船リニューアル



新車 小型陸上施工機械

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 29

次に、地盤事業です。こちらは生産性向上と、やはり安全対策、それとやはり人が少なくても施工できる体制、そういったことを目指して自動化、遠隔化技術へかなり投資をしてきております。既に実際の現場にも投入をしてきております。後で、トピックスでこの辺についてはご説明をさせていただきます。

新技術としては、リソイル Pro 工法、これももう既に発表をさせていただいています。サンドコンパクション船、新しく休船していた船を戦力として現地、現場に派遣できるようにリニューアルもしてきております。

サポート

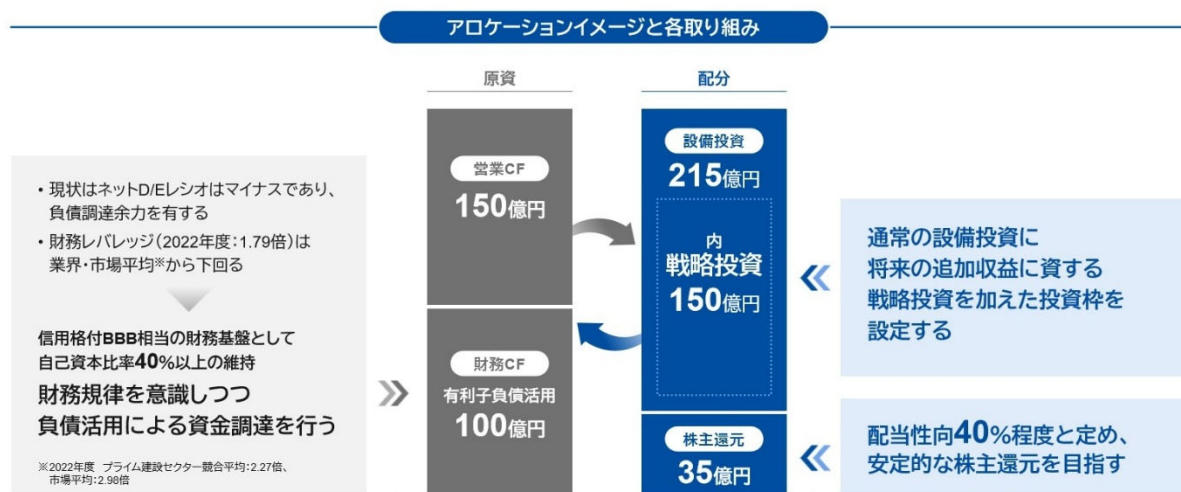
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



戦略的投資(資本コストを意識した経営の実践)



キャッシュ・フロー・アロケーション方針 「成長投資と株主還元の両立による企業価値の最大化」
営業活動により創出したキャッシュに、積極的に負債を活用して、戦略的投資を行う。



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 30

見ていただきますと、150 億円と言っていますが、この設備投資 215 億円の中に内数として、戦略的な投資 150 億円を含めた形で配分を考えております。配当の 40%以外について、積極的に営業キャッシュフローとお借りする負債を使って、将来のための投資を続けていくと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



戦略的投資の状況



当社は、事業環境の変化に迅速に対応し、持続的な成長と企業価値向上を実現するため、通常の設備投資に加え、将来の追加収益に資する戦略的投資を積極的に推進している。

<投資の取り組み状況>

投資案件	概要	期待効果
400t吊全旋回式クレーン搭載 浚渫兼起重機船の新造	海洋インフラの再構築に向け新機能を搭載し環境性能を向上した船舶を新造する。	コスト削減の実現と、クリーンな海洋開発を推進し、新事業機会の創出や競争力の向上に貢献する。
サンドコンパクションパイル船の 増船(復船)	市場動向で減船していたサンドコンパクションパイル船を戦略的に増強する。	機会損失の回避により海上サンドコンパクションパイル工事でのプレゼンスが向上する。
生成AIの導入	生成AI活用による全社DXにより、生産性革新と新価値創出を目指す。	DXを強力なエンジンとし、企業価値の持続的な向上を実現する。
研究開発投資	先端技術とオープンイノベーションを駆使し、多岐にわたる可能性を追求することで、次世代技術の構築を目指す。	収益向上と新規事業創出に加え、環境貢献による企業価値向上と持続的な競争優位を確立する。
新規事業の創出と事業領域の 拡大	事業ポートフォリオマネジメントの高度化から、事業領域の拡大、新規事業の創出を目指す。	新たな収益源を確保し市場競争力を強化、持続的な企業価値向上を実現する。

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 31

現状、1年目が終わりました、そのうちの戦略的投資と云っていいのは、先ほどお話ししました土木の新造船 FT400、それとサンドコンパクション船、減船をしていました船を戦略的に増強しております。

それと、生成 AI の導入によって、一人一人の作業が効率と新しい価値を見いだせるんじゃないかということで、生成 AI の導入にも踏み切っております。

あと、具体的にはなかなか細かい話になってきますが、研究開発投資、それと新事業の新しい、今まで取り扱ってきた事業より外の領域へのチャレンジということで、こちらにも予算を立てております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



株主還元政策



当期の配当金は、期初発表の通り1株当たり60円とし、これが実施されれば当期の配当性向は41.3%となる見込み。次期の配当金については、利益還元目標に基づき、次期の利益増加に伴い、当期に比べ1株当たり10円増配となる70円とする予定である。

株主還元方針

株主の皆様に対する利益還元と経営基盤の強化を重要な経営課題と位置付け、安定的に株主還元を継続する

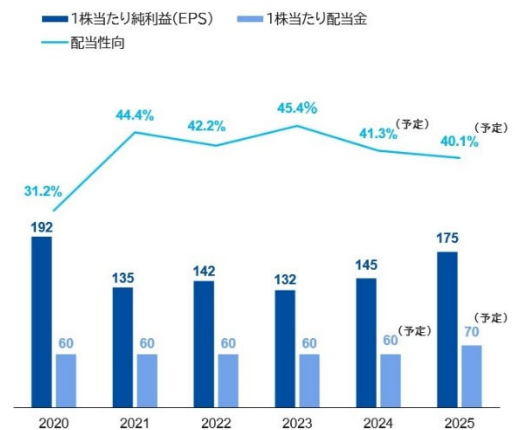
株主還元目標

基本方針を踏まえ、配当性向・1株当たり配当金は以下を目標とする

配当性向
40%程度

配当金
60円以上

● 株主還元の状況(円)



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 32

株主様への配当、還元につきましては冒頭でご説明をさせていただきました、40%程度、最低 60 円と設定をさせていただいています。2024 年度については 60 円で、株主総会にお諮りをさせていただきます。そして、今年度スタートしたばかりですが、2025 年度につきましては来年度 70 円の配当を予定させていただいております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



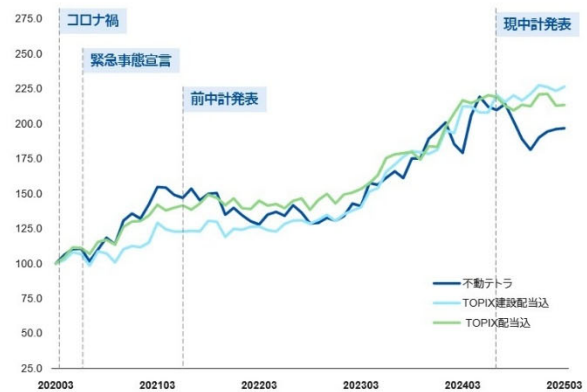
【参考】株主総利回り(TSR)



当社TSRは過去5年で2倍弱。主力事業が牽引し市場に対し優位に推移した時期もあったが、市場全体の高い成長には最終的にやや未達。

	過去 1年		過去 3年		過去 5年		過去 10年	
	累積/ 年率		累積	年率	累積	年率	累積	年率
不動産テトラ	10.9		58.0	16.5	96.8	14.5	16.8	1.6
TOPIX 配当込	-1.5		47.2	13.8	113.4	16.4	117.4	8.1
TOPIX建設 配当込	6.7		79.1	21.4	126.6	17.8	161.1	10.1

● 2020年3月末の終値を100とした配当込株価（配当再投資）



*1 TSR (Total Shareholder Return): キャピタルゲインとインカムゲインを合わせた、株主にとっての総合投資利回り。配当を再投資すると想定。

*2 2025年3月末の終値を基準としています

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 33

参考に TSR についてもお付けさせていただいております。少し優位に推移した時期もありましたけれども、市場全体がかなり高い成長をとげていますので、若干最終的にはやや未達になったところもございます。ただ、3年のところ、1年については、弊社としてもそこそこの利回りになったのかなとは考えています。参考に見ていただければと思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



◆国道 349 号丸森第 2 号トンネル工事



事業主体: 国土交通省東北地方整備局
施工場所: 宮城県伊具郡

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 35

最後になります。トピックスです。土木の東北地整の 349 号丸森第 2 号トンネル工事、

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

◆重要港湾舞鶴港 京都舞鶴港物流基盤
重点整備工事



事業主体:京都市
(元請会社:大本組・大進工業特定建設工事共同企業体)
施工場所:京都府舞鶴市

◆仁井田浄水場等整備事業



事業主体:秋田市
(元請会社:鹿島・佐々木組特定建設工事共同企業体)
施工場所:秋田県秋田市

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 36

それと地盤改良、舞鶴港。これはまさしく、新しく、休んでいた船をかなりお金をかけて復活させて増強した船で受注できた工事でございます。それと、秋田の浄水場の工事です。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

◆令和6年度 小渋ダム松除地区掘削
工事



事業主体:国土交通省中部地方整備局
施工場所:長野県下伊那郡

◆金沢港(大野地区)防波堤(西)(改良)
消波・被覆工事(その1)



事業主体:国土交通省北陸地方整備局
施工場所:石川県金沢市

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 37

ブロックは、ダムの掘削工事への貼りブロックと、金沢での国交省さんの防波堤に使う消波ブロックと被覆ブロックを挙げさせていただきました。

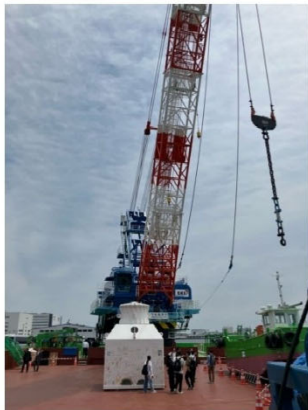
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

新造の浚渫兼起重機船(押航式)「FT400」見学会を開催

2025年5月22日～23日、東京辰巳ふ頭で、新しく造船した浚渫船兼起重機船(押航式)「FT400」の見学会を開催しました。投資家、顧客、学生などステークホルダー約300名が参加し、船内を案内、最新の機能や設備を説明しました。見学会終了後は直ちに衣浦港へ向かい、初弾工事で稼働を開始します。

「FT400」は、今後、さまざまな海上プロジェクトへの浚渫兼起重機船の参画に向けて積極的な営業を展開していくとともに、災害発生時ににおいて対応可能な機能を装備することにより、被災地の災害支援活動にも役立ちたいと考えています。



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 38

FT400 の見学会をさせていただきました。300 名と書かせていただいておりますが、実際にはもう少し多くて 380 名ぐらい、2 日間で来ていただきました。これは投資家の皆様にも、アナリストの皆様ですかね、ご見学に来ていただいたときの写真です。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

地盤改良工法の自動化・遠隔化技術の推進

当社は従来オペレーターが行っていた打設操作を、コンピュータ制御により自動で行う自動打設システム「GeoPilot-AutoPile」を開発しました。この技術は第26回国土技術開発賞にて優秀賞を受賞し、国土交通省の新技術情報提供システム「NETIS」にも登録されています。また、地盤改良施工機の遠隔操縦技術の開発も進めており、2024年12月には国土交通省主催の「建設機械施工の自動化・遠隔化技術に係る現場検証」の実施者に選定され、地盤改良技術としては初めての試みとなる実証実験を実施しました。今後の技術普及と実用化に向け、2025年2月より四国地区にて実際の施工現場での試行を開始しています。これからも地盤改良工法の自動化・遠隔化技術の開発を通じて、安全で快適な労働環境を実現し、若年層や高齢者が活躍しやすい建設現場づくりを目指します。



国土交通省「建設機械施工の自動化・遠隔化技術に係る現場検証」の実施状況



「令和5-7年度 中島上流堤防耐震対策工事」見学会

事業主体 国土交通省四国地方整備局〔元請：兼子建設(株)〕
施工場所 徳島県徳島市川内町野瀬地先

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 39

これが地盤改良の遠隔操縦の施工機と、これは実際の現場で、四国の国交省さんの発注の工事です。実際に機械は遠いところで動いておるんですけども、ここでオペレーターが画面10個ぐらいのテレビカメラを見ながら操作をしています。

これは実際に NETIS にも登録をされましたし、国土交通省の施工機械、施工の自動化、遠隔化技術に関わる現場検証というので、地盤改良の施工機としては当社だけが選定され、実証実験を既にさせていただきました。現在、本工事で、全てをこれで施工するわけじゃありませんけれども、一部こういった形で施工をさせていただいています。多くの方に現場にも見学に来ていただいています。

サポート

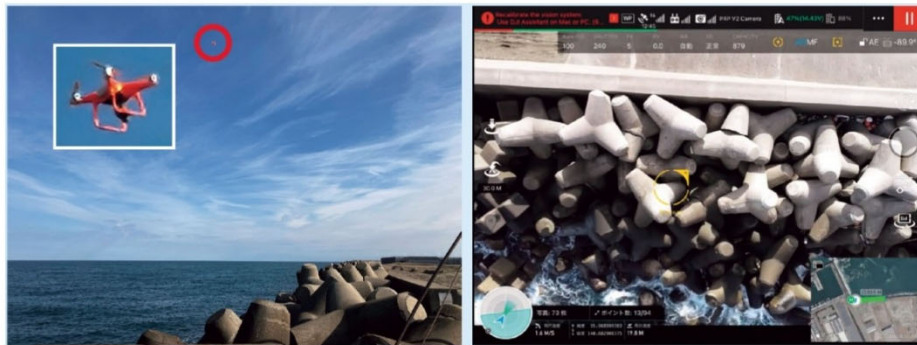
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

ドローンを用いた港湾構造物の点検診断技術を開発

当社は、ドローンを用いた港湾構造物の点検診断技術を開発しました。この技術は、ドローン等による3次元測量から港湾構造物の3次元データを作成し、消波ブロックなどの劣化度がわかる判定表を短時間で作成するものです。茨城県にある鹿島港での技術検証の結果、作業効率は従来比270%に向上し、非常に効率的な技術であることが実証されました。また、従来は目視で行っていた点検診断ですが、安全の確保が難しい場所での作業が可能となったことで、業務の負担軽減だけでなく安全性向上にも寄与しています。

この点検診断技術が、今般、国土交通省港湾局が作成している「港湾の施設の新しい点検技術カタログ」に掲載されることとなりました。このカタログは、選定会や技術検証などの審査を経て、点検診断を効率的に可能とするような技術を掲載するものです。

今後、当社の技術が港湾構造物の点検に活用されることが期待されます。



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 40

そしてもう一つ、ブロックです。これはドローンも使いまして、なかなか人が入っていけないところ、被災した地域等の消波ブロックの状況を撮影して、それを実際の工事に図面化して役立てていくというものです。これも実はもう茨城県の鹿島港で技術検証を受けました。国土交通省港湾局が作成されています港湾の施設の新しい点検技術カタログに実際に掲載されることになりました。

こういった当社の技術が使われることによって、少しでも市場が拡大して、弊社の受注環境が少しでも良くなればと、それと被災された地域が早く人が入らなくてもこういう測量ができるということに役立てていければと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

土浦市と総合技術研究所が災害協定を締結

土浦市と総合技術研究所の間で災害協定が締結され、11月21日(木)に土浦市庁舎で締結式が開催されました。協定の内容は、災害発生時の避難場所として、研究所の敷地を活用するものです。

最大の特徴は、土浦市の避難場所として初めて「ペット同伴避難者」を受け入れる施設となったことです。近年日本各地で発生した災害では、ペットがいるために避難所に入れず、長期間の車中泊などを余儀なくされる被災者が問題となっていました。そこで研究所では、土浦市防災危機管理課と協議を重ね、ペット同伴避難場所としての協力体制を築くに至りました。

締結式の際に安藤市長から、今回の防災協定だけでなく、茨城県下19市町村の首長の見学会の開催や、市内小中学校の防災授業、職場体験の実施など、多岐に渡る研究所の貢献に対して感謝のお言葉をいただきました。また船田所長からは、ペット同伴避難が動物愛護の観点のみならず、飼い主の心のケアの観点からも重要であり、発災時の復旧・復興を迅速に進めるためにも、研究所を活用していただきたいと伝えられました。

引き続き研究所では、防災に関わる企業として成すべき社会貢献の取り組みを通じて、自治体と企業の協力関係のあり方について検討を進めていく予定です。



災害協定締結式(船田研究所長と安藤土浦市長)



協定書(災害時におけるペット同伴避難者の受入等に関する協定)

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 41

最後にもう一つです。地域貢献ということで、土浦の研究所が、土浦市さんと災害協定を締結しております。ユニークな覚書を交わさせていただいています。避難所をご提供差し上げますが、ペットを同伴で避難をしていただける施設ということで、弊社の一部の施設をお使いいただけるような形で締結をさせていただきました。

ちょっと足早になりましたが、以上、ご説明をさせていただきました。ありがとうございます。引き続き、今期、中計2年目がスタートして2カ月近いですが、順調に受注も積み上がってきております。しっかり2年目を仕上げて、最終年度に向かえるように、役員、社員一同全力で取り組んでまいりますので、引き続きのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

司会：ご説明どうもありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

質疑応答

司会 [M]：それでは、ご案内のとおり、最初は会場にお集まりの皆様からの質疑応答に入ります。

なお、この説明会は質疑応答部分を含め全文を書き起こして公開予定です。従いまして、もし匿名を希望される場合は、お名前等をおっしゃらないようお願い申し上げます。

それでは、ご質問を会場の皆様、いかがでございましょうか。

質問者 [Q]：きょうはありがとうございました。先ほどブロック事業のところ、立て直しのためということで組織のスリム化とか、あるいは外に出るお金を減らすみたいなお話があったんですけども。これは24年度にやられたことなのか、25年度、これからやられることなんでしょうか。

奥田 [A]：ありがとうございます。傾向としては、ここも先期、先々期ぐらいから、やはり市場の発注されるケースが減少してきているというのが見えてきていましたので、徐々に進めております。

スリム化と言いますけれども、ブロック事業に関わっているそういった人員、あるいは施設等を他のところで有効に使えるところは、他部署のほうにしっかり人材と、それに関わるものを移行していくというような形で、今はブロックにかかる経費の削減の方向での施策を進めております。

ですので、昨年度、今年度というよりは、もう2～3年、そうですね、前中計の真ん中ぐらいからそのような対応を取り始めております。

質問者 [Q]：20ページのブロック環境事業の過年度推移のところのグラフに、中計最終年度、26年度売上高、ブロック環境事業は31.8億円、営業利益2.6億円とあるんですけども。これは今の中計の計画の数字をそのまま入れている数字だと思うんですが、これは何ですか、かなりジャンプアップしている感じがあるので、営業利益は、実現可能な数字と考えてよろしいでしょうか。

奥田 [A]：2026年度は、ブロックとしてはかなり大型のプロジェクトがあるという設定で計画しております。そのプロジェクトについては国家的プロジェクトですので、時期的にもそうずれないだろうということで計画値に織り込ませていただいております。

ですので、全体の流れは、やはりこういう大きなプロジェクトがあると少し増えるんですけども、今の全体的な市場としては先期、あるいは今期の計画の規模をなかなか脱せないのかなという気はしております。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質問者 [M]：分かりました。ありがとうございます。

司会 [M]：ありがとうございました。他にご質問はいかがでございましょうか。オンラインでご参加の方からのご質問は来ていないということのようでございます。従いまして質疑応答は以上ということにさせていただきたいと存じます。

それでは、時間が若干余りましたけれども、以上をもちまして、株式会社不動テトラ様の決算説明会を終了とさせていただきます。奥田社長様、そして川地様、北垣様、本日は大変ありがとうございます。

本日お集まりの皆様、大変お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。オンラインでご参加の皆様も大変ありがとうございました。お礼申し上げます。お気をつけてお帰りください。以上でございます。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com